

みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.
161
東北森林管理局

特集

日本美しいの森……東北のお薦め国有林

「保全課」

CONTENTS

■美しい森林づくり

「地元中学生が遊々の森で体験林業」……[津軽森林管理署金木支署]

■我が署の名所

じしゅうざん

宮城県唯一のスギ天然林「自生山」(宮城県大崎市鳴子温泉鬼首)

……………[宮城北部森林管理署]

飯豊本山山頂より見るダイグラ尾根

[東北森林管理局登山同好会提供]

日本美しいの森

「東北のお薦め国有林」

保全課

みなさんの耳に馴染みの「レクリエーションの森」ですが、平成28年4月現在において全国では1,000箇所あまり、東北森林管理局管内にあっても187箇所（*表1）が設定されていますが、いかがですか？

今般、「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」（議長・内閣総理大臣）により策定された同ビジョンを踏まえ、今年度より前述の「レクリエーションの森」を核とした山村地域にお

（*表1）東北森林管理局管内のレク森の種類と箇所数一覧 平成29年4月1日

自然休養林	12	多機能な施設
自然観察教育林	44	森林環境教育等
風景林	78	名所、旧跡、寺社等の背景林
森林スポーツ林	11	キャンプ等森林スポーツ林
野外スポーツ林	41	主にスキー場
風致探勝林	1	湖沼、渓谷と一体で自然が美しい
計	187	

（*表2）東北森林管理局管内（11箇所）

代表例			
名称	署等	所在地	特徴
白神山地・暗門の滝自然観察教育林	津軽	西目屋村（青森県）	静と動が織りなす悠久の森「白神のブナ林」と秘境「暗門の滝」
焼走自然観察教育林	岩手北部	八幡平市（岩手県）	岩手山麓の四季と溶岩流のコントラスト
温身平風致探勝林	置賜	小国町（山形県）	森林浴・セラピーを楽しむ美しいブナ林
このほか			
名称	署等	名称	署等
五葉山自然観察教育林	三陸中部	万里の松原自然観察教育林	庄内
夏油高原野外スポーツ地域・夏油自然観察教育林	岩手南部	葉山風景林	山形
仁別自然休養林	秋田	山刀伐峠風景林	山形
鳥海自然休養林	由利	白鷹虚空蔵山風景林	山形

る観光地域づくりの取組みを推進するための「森林景観を活かした観光資源の創出事業」として、全国93箇所、東北森林管理局管内では11箇所（*表2）が選定されました。今後、選定された箇所においては、修景伐採

や施設整備等の環境整備や多言語による情報発信等の看板設置を行っていきます。

現在、林野庁ホームページにおいて、一部各局の紹介がなされているところではありますが、東北森林管理局管内については、まだ掲載がありませんので先じて少々ご紹介いたします。

代表例として、

○津軽森林管理署

（白神山地・暗門の滝自然観察教育林）（*写真1）

・暗門渓谷コース（通称暗門の滝）、世界遺産の径ブナ林散策コース

・津軽峠からマザーツリー（推定樹齢400年の白神山地を代表する母なる巨木ブナ）



暗門散策道 (*写真1)

- 岩手北部森林管理署 (焼走自然観察教育林) (*写真2)
- ・八幡平国立公園内の天然記念物「焼走り溶岩流」
- (長さ約3kmの溶岩流観察路)
- 置賜森林管理署 (温身平風致探勝林) (*写真3)
- ・国内第1号のセツピー基地認定地 (森の癒やしや健康増進への活用)



焼走熔岩流と岩手山 (*写真2)

最後、紙面をおかりして、昨年度から話題となっているクマについては、現在も全国的に出没情報が絶えません。

秋田県内においては、「ツキノワグマ出没に関する警報の発令期間の延長」がなされたところでありますので引き続き事故の未然防止対策にご協力をお願いします。



温身平と冠雪した飯豊連峰 (*写真3)

- (既発令) 平成29年5月27日から
平成29年7月15日まで
- (延長) 平成29年7月16日から
平成29年8月31日まで

美しい森林づくり

「地元中学生が遊々の森で体験林業」

津軽森林管理署金木支署

平成 28 年度末に協定期間が満了となった中泊町立中里中学校と津軽森林管理署金木支署との「遊々の森」(名称:あすなる自遊モリ森)の協定を更新し、本年度も6月5日(月)と7月6日(木)に開催しました。

6月5日(月)は、中里中学校1年生56名を対象として、中里中学校体育館で片岡支署長から、森林や国有林等に関する森林教室を行い、ヒバの空中取り木苗作製のデモンストレーションを行った後、現地に向かいました。

現地到着後、生徒の皆さんは4~5名ずつの班に分かれ、職員の指導のもとに、カッターを用いて、ヒバの環状剥皮や剥皮部分への水苔巻き等の作業をそれぞれ分担しながら真剣に取り組んでいました。



森林教室(支署長)(6月5日)



空中取り木作製の様子(6月5日)

今回、作製した空中取り木が発根し、苗木として利用できるようになるのは、約3~4ヶ月後で、9月下旬には、その空中取り木苗をもって現地に植樹する体験を行う予定です。

また、7月6日(木)には、中里中学校2年生54名を対象に、昨年度、自分たちが植樹した空中取り木苗等の下刈・補植作業と樹木の測樹体験を行いました。

組毎に分かれ、前半1組が測樹、2組が下刈・補植を行いました。測樹では、輪尺と測竿を用いて林内のスギ外の樹木の胸高直径と樹高を職員から指導を受けながら測定し、野帳に記入しました。生徒の皆さんは、輪尺の読み方(2cmきざみ)に戸惑いながらも真剣に取り組んでいました。



職員から輪尺の使い方を教わる(7月6日)

下刈・補植体験では、下刈鎌を使用して昨年度、自ら植樹した空中取り木苗と山取り苗周辺の雑草の刈り払いを行うとともに、残念ながら枯れてしまった苗(殆どが山取り苗)を抜き取り、そこに新しいヒバ苗木の植樹もしました。



下刈の様子(7月6日)



植穴を掘る女子生徒(7月6日)

作業終了後には、生徒代表から、「枯れてしまったのは残念だけど、今度は大きく育ててほしい」「何年か後に自分が植えた苗がどうなっているか見に来たい」等の感想が述べられました。

9月下旬頃には、本年度最後の遊々の森での体験林業(植樹体験)を開催しますが、金木支署では来年度以降も、次代を担う生徒たちに、森林の大切さ等を伝えていきたいと考えています。



各地からの たよりの

列状間伐現地

検討会を開催

岩手北部森林管理署

6月30日(金)に、八幡平市の苗代澤山国有林において、関係林業事業者、東北森林管理局、当署の担当者など約40名が参加して、列状間伐現地検討会を開催しました。

はじめに、岩手北部森林管理署長から、平成27年度に間伐要領が改正され、今後は、間伐の効率性、安全性等の観点から、列状に選木する「列状間伐」を推進していくことについて、理解を求めました。



列状間伐の伐採列



伐倒作業の実演

次に、東北森林管理局資源活用課長からは、平成27年までは、メートル幅で考える列状間伐により実施してきた方が、この方法では、残された立木に対して間伐の効果が薄く、間伐の目的である密度管理上、植栽列で考えた列状間伐を進めていく必要があるという話がありました。

当該箇所では生産請負を実施している事業者からは、「見る人によって列の考え方が異なり、選木で苦労している。列の幅が狭く、かかり木が多く発生し、集材も大変。搬出の際には、周囲の木に傷を付けやすく注意している。」と労力が増えたこと等についての意見がありました。これについて、資源活用課長と当署総括森林整備官から、テープで明示する、又は少し離れて枝葉を確認すると列が考えやすくなった、

安全な作業方法や選木方法などについても、具体的に指導しました。

その後、伐採列を確認した後、列状間伐における伐採の実演として、立木を2本伐倒しました。1本目は列のとおり倒れましたが、2本目は周囲の枝葉にぶつかりながらの伐倒となり、列に沿った伐倒の難易度の高さがうかがえました。

最後の意見交換では、「造林地に侵入してきた広葉樹は、列状に並んでいないが、このまま伐倒するとかかり木になってしまつという場合、列以外で伐採しても構わないか。」との質問があり、資源活用課長から、「危険があるのであれば、列状にとられることはない。あくまで安全第一。ただし、伐採率の関係上、広く伐採した分、別の場所に残すこと。」との回答がありました。

最後に、当署総括森林整備官から、まとめとして今回の検討会の内容を今後の事業に生かして欲しいという話があり、本検討会は終了となりました。

作業方法が変わつた直後で戸惑う部分もあるかと思われませんが、本検討会で各々が確認でき、有意義なものになったと考えています。



意見交換の様子

平成29年度村山市「ふるさと教育の森」の開催

山形森林管理署

村山市教育委員会の「ふるさと教育の森」は、村山市内の中学校を対象に、午前中は植林体験、午後は地域の団体や関係機関による森林教室など体験学習の実施を通じて、子供たちに自然の大切さやふるさとへの愛着をやしなう取り組みを実施しています。

昨年度、国土緑化推進機構から「ふれあいの森林づくり」としての功績が認められ、理事長賞の表彰を受けました。また、活動状況を記録したDVDは、第65回山形県自作視聴覚教材コンクール学校教材部門で最優秀賞を受賞しました。

今年も、村山市山の内国有林(村山市分収造林)において、6月6日に楯岡中学校1〜2年生280名、7日に3年生154名が、スギとブナの苗木を植林しました。当署の職員は植林



植林指導



植林状況

指導と補助等を担当し、事故もなく終了しました。梅雨も近いため天候が心配されましたが、2日間は無事に開催できました。8日の葉山中学校の植林体験は雨のため残念ながら中止となりました。

この取り組みも今年で36回目を数え、植林は親から子にわたり続いている活動であり、当時の思い出として親子に話されたことを聞きました。

過去に植林したスギが現在、大きく育っていることを嬉しそうに話したそうです。(ご様子が思い浮かびます。)

今後とも「ふるさと教育の森」活動を通



植林状況



植林状況

して、「村山市の中学生が森林の役割を理解し自然環境を守り、故郷について学ぶ」この地域の取り組みを支援していくつもりです。

**平成29年度国民の森林づくり等の
功労者への局長感謝状の贈呈
(山形市成沢グリーンフィールド協力隊)**

山形森林管理署

6月16日、山形市役所において、山形市成沢グリーンフィールド協力隊への感謝状伝達式が、山形市長同席のも行われました。



表彰状の贈呈



署長の挨拶



山形市長の祝辞

の栽培)、高校生に対する自然環境体験への協力などに取り組んでいます。

なお、活動フィールドである蔵王成沢地区内の「ニッ沼」はかんがい用溜池として下流域の蔵王成沢地区を潤す重要な水源地であり、また、「西蔵王地区」は太平洋側・日本海側の多々の植物が混在する地域でもあり、地域の人々から親しまれています。

本協力隊が、今後とも本地域の森林保全活動、森林整備、自然環境教育活

本協力隊は、平成18年2月から現在まで、ボランティア活動として、ニッ沼周辺国有林(山形市分収造林地)等において下草刈や遊歩道の整備を実施するとともに、地域住民との交流を深めるため山菜祭りやきのこ祭りの開催をはじめ、地元の小学生への森林教育活動

**林野庁長官感謝状の贈呈
植生回復事業の取組**

置賜森林管理署

平成29年7月8日、米沢市西部コミュニティセンターにおいて、環境保全活動に取り組んでいる団体「ネイチャーフロント米沢」(青柳和良代表)へ、林野庁長官からの「国民の森林づくり推進功労者感謝状」を贈呈しました。

この感謝状は、国有林における保全活動の取り組みや普及活動等、長年の功績が認められる者に対して林野庁長官から贈られるものであり、2009年度から行っています。

ネイチャーフロント米沢は、吾妻山周辺森林生態系保護地域において、裸地化した湿原の植生回復事業の取り組みを14年間続けてきているほか、こ



受賞関係者の記念撮影

動に積極的に取り組んでいかれることを期待します。

INFORMATION

新任者略歴紹介

7月10日付け

局長

こじま たかふみ
小島 孝文
(東京都)



昭和62.4 農林水産省入省
平成24.4 林野庁計画課 施工企画調整室長
平成26.7 林野庁 木材産業課長
平成28.8 林野庁 整備課長

からは、長年の功績に対する感謝と敬意の言葉が述べられ、団体の青柳代表からは感謝状授与は激励と受け止め、今後とも頑張つて行きたいとの決意表明



感謝状授与記念写真

の取り組みを通して環境保全活動の普及にも多大な貢献をしており、今回、その活動が高く評価され、感謝状が贈呈されたものです。贈呈を行った置賜森林管理署長

があり、出席した会員からも大きな拍手を受けていました。贈呈式の後は、通常の例会が行われ、早速、今年度の植生回復事業の詳細について打合せをしていました。感謝状授与が刺激になったのか、互いに活発に意見を出し合う会員のいきいきした顔がとても印象的でした。



植生回復作業状況

朝日山地人工林の

林況調査

朝日庄内森林生態系保全センター

山形県と新潟県にまたがる朝日山地森林生態系保護地域（区域面積は約70千ha（うち山形県内は48千ha）のうち山形県内には人工林が79箇所、約271haが含まれ、その取扱いは「育成複層林施業等針広混交林化を図るために必要な施業を行い、将来は天然林に導く。」こととしています。

今年度は個々の人工林について、6月から9月にかけて広葉樹の侵入状況や路網の状況を調査し、今後の施業について検討を行うこととしています。具体的には、人工林を次の4つに分し、今後の森林計画への反映等について、関係森林管理署と検討を行う予定です。

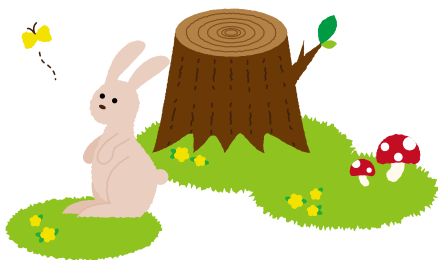


林況調査の様子

- ①主伐及び間伐を行い針広混交林へ誘導する箇所（路網あり）
- ②間伐（伐り捨て）を検討する箇所（路網なし）
- ③すでに針広混交林化しており自然の推移に委ねる箇所
- ④すでに天然生林化している箇所



搬出路の調査



しだの仲間

ジュウモンジシダ・ミヤマベニシダ・サカゲイノデ・ナライシダ
マンネンスギ・スギナ

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

地球上に40万種以上の植物が生育しているなか、花を持たず孢子で繁殖するしだや苔など隠花植物が約40%を占めると言われています。シダ類や菌類、地衣類は研究が進んでおらず生態など未知な部分が多い分野ですが、林床で地味で渋めな仲間を紹介します。

しだの仲間は、マツバラコノケ類、ヒカゲノカズラ類、トクサ類、シダ類の4類に分類され、維管束を持ち、見かけ上は普通の植物体ですが、孢子嚢を持つのが特徴です。

ジュウモンジシダは溪流沿いの湿った林を好み円形に束生する。一番下の葉が大きく十字の槍を連想させることが由来。

ミヤマベニシダは芽出しの葉柄がピンクや紫で、下半分くらいに鱗片があるのが特徴。

サカゲイノデは、束生し葉柄の下部に大きな鱗片が下向きに付き、鱗片の毛をイノシシ

の手に見立てたことが由来で、孢子嚢は黒く八の字型。

ナライシダは、ブナ林などで見かけ葉柄から小葉が互生し卵形で文様が美しく孢子嚢は点状。

ヒカゲノカズラ科の**マンネンスギ**は、高山帯の低木の下で見られるシダの仲間。いつまでたっても大きくならない**万年杉**が由来。

トクサ科の**スギナ**もシダの仲間です。ツクシはスギナの孢子嚢で、孢子葉は六角形です。

夏休み猛暑をしのぐためにクーラーにたより過ぎていませんか？ 日本庭園の美にしだや苔のアクセントが重要なように、「涼」には5感が大事。「水や風の音」「葉のゆらぎ」「森の香り」などしだ類の**未知なる部分**が秘められてるかも！



ジュウモンジシダ



ミヤマベニシダ



サカゲイノデ



ナライシダ



マンネンスギ



スギナ



森林官からの手紙



地域と係わり対外的な連携を深めて

秋田森林管理署 湯沢支署 増田森林事務所 森林官 千葉 智樹



増田地区中心部の町並み

私
の
勤
務
す
る
増
田
森
林
事
務
所
は
秋
田
県
横
手
市
南
東
部
に
位
置
す
る
横
手
市
増
田
町
に
あ
り
ま
す。
古
く
か
ら
産
業
を
は
じ
め、
岩
手
県
や
宮
城
県
へ
通
じ
る
交
通
や
物
流
の
要、
そ
し
て
東
北
経
済
の
要
衝
と
し
て
栄
え、
町
の
中
心
部
に
は
明
治
以
降、
商
人
が
築
い
た
昔
な
が
ら
の
町
並
み
や
内
蔵
が
多
く
残
さ
れ、
今
も
そ
こ
で
生
活
し
て
い
る
方
々
が
い
ま
す。
平
成
二
五
年
に
は
国
の
重
要
伝
統
的
建
造
物
群
保
存
地
域
に
選
定
さ
れ
て
お
り、「
内
蔵
の
あ
る
町
」
と
し
て
注
目
さ
れ
て
い
る
地
域
で
も
あ
り
ま
す。

当
事
務
所
は
横
手
市
と
東
成
瀬
村
の
国
有
林
を
管
理
し
て
い
ま
す。
林
況
と
し
て
は
天
然
林
を
主
と
し
た
広
葉
樹
林
が
多
く
あ
り、
そ
の
代
表
と
し
て
栗
駒
山
（
山
体
が
宮
城
・
秋
田
・
岩
手
県
の
三
県
に
ま
た
が
る
山
で、
山
頂
部
は
宮
城
県
と
岩
手
県
の
境
界
）
を
中
心
と
す
る
栗
駒
国
定
公
園
が
あ
り
ま
す。



稗岳付近から見た須川湖

春
に
は
高
山
植
物
が
咲
き
誇
り、
イ
ワ
カ
ガ
ミ
湿
原
や
シ
ラ
タ
マ
の
木
湿
原、
水
河
期
か
ら
植
物
が
未
分
解
の
ま
ま
堆
積
し
て
で
き
て
い
る
学
術
的
に
も
珍
し
い
と
さ
れ
る
泥
炭
地、
秋
田
県
が
鳥
獣
保
護
区
内
に
設
定
し
て
い
る
野
鳥
の
森、
新
緑
の
季
節
に
は
湖
面
か
ら
美
し
い
光
景
を
眺
め
る
こ
と
の
で
き
る
須
川
湖
な
ど
様
々
な
名
所
が
あ
り
ま
す。

秋
の
紅
葉
時
期
に
お
い
て
も
素
晴
ら
し
い
景
観
を
見
よ
う
と
県
内
外
か
ら
多
く
の
観
光
客
が
訪
れ
ま
す。
ま
た、
平
成
三
六
年
完
成
予
定
の
成
瀬
ダ
ム
で
す
が
現
在、
付
帯
す
る
工
事
が
進
め
ら
れ
て
お
り、
地
元
か
ら
は
今
後
に
お
け
る
新
た
な
観
光
施
設
と
し
て
期
待
さ
れ
て
い
ま
す。
さ
て、
こ
の
よ
う
な
中
で
森
林



遭難防止入山禁止ロープ設置



高山植物盗採防止パトロール

官
と
し
て
の
通
常
業
務
で
す
が、
林
道
点
検
等
を
含
む
林
野
巡
視、
境
界
管
理、
造
林
保
育
や
林
道
維
持
管
理
に
か
か
る
請
負
事
業
の
監
督
業
務
な
ど
が
主
な
業
務
と
な
っ
て
い
ま
す
が、
村
役
場
を
は
じ
め
と
す
る
関
係
機
関
と
連
携
し
た
業
務
を
す
る
機
会
も
多
く
あ
り
ま
す。
内
容
と
し
て
は
春
先
の
タ
ケ
ノ
コ
採
り
の
時
期
に
お
い
て
遭
難
防
止
の
観
点
か
ら
警
察
や
消
防、
関
係
自
治
体
等
と
の
合
同
に
よ
る
入
山
禁
止
ロ
ー
プ
と
注
意
喚
起
看
板
の
設
置
や、
秋
田
・
岩
手
両
県
合
同
に
よ
る
高
山
植
物
盗
採
防
止
パ
ト
ロ
ー
ル、
栗
駒
山
周
辺
の
関
係
自
治
体
が
中
心
と
な
っ
て
実
施
し
て
い
る
ク
リ
ン
ナ
ッ
プ
活
動
等
が
あ
り
森
林
事
務
所
も
そ
の
一
員
と
し
て
対
外
的
な
連
携
を
深
め
て
い
ま
す。
今
後
も
様
々
な
機
会
を
通
じ
て
地
域
な
ど
に
係
わ
り
な
が
ら
国
有
林
の
維
持
管
理
等
の
現
場
業
務
に
あ
た
っ
て
い
き
た
い
と
思
い
ま
す。



自生山の林内



スギ伏状更新



自生山天然杉の遠景

我が署の名所

宮城県唯一のスギ天然林「自生山」
じしようざん

(宮城県大崎市鳴子温泉鬼首)

宮城北部森林管理署

自生山(標高784m)は、宮城県大崎市の江合川(荒雄川)上流に位置し、宮城県と秋田県に跨がる須金岳(標高1,2503m)の前山として、鬼首カルデラの外輪山の一部を形成しています。

地質は凝灰岩が多く、非常に急峻で崩れやすい地形となっており、付近には有名な鳴子温泉や間欠泉で知られる鬼首温泉のほか地熱発電所などがあります。

この一帯は奥羽山脈に属し、ブナを中心とする天然林で、スギ、ネズコ(クロベ)、キタゴヨウの針葉樹が点在し、広葉樹はブナのほか、ミズナラ、ホオノキ、トチノキ、サワグルミ、カツラ、ケヤキ、イタヤカエデ等が主な樹種になっています。

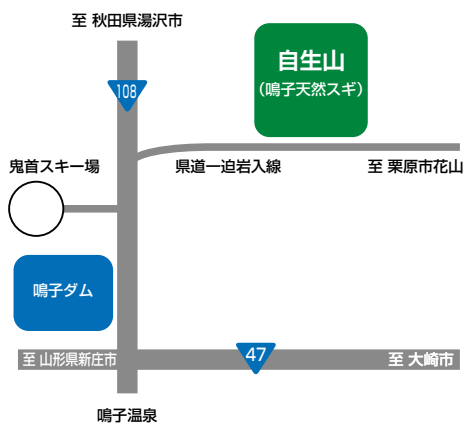
地表には、シシガシラ、リョウメンシダ等のシダ類やムラサキヤシオ、タムシバ、ツクバネソウ、イワウチワ、ホトツジ等の美しい花を咲かせるものも多くあります。

この自生山を中心とする地域には、ほぼ原生林状態のスギの自生地があり、藩政時代から大切に保護され、大正13年には学術参考保護林に設定されました。

そのため、直径1mにもなるスギの巨木をはじめ、クリ、ホオノキ、ハリギリ、トチノキ、サワグルミ、ケヤキ、カツラなど広葉樹の巨木も多くみられます。

自生山の天然スギは、天然秋田スギの系統で、宮城県内唯一の天然スギ林といわれています。このスギの特徴である枝が下垂し、地面に接して繁殖する伏条更新の様子を見ることができます。

学術的にも貴重なものであることから、原則として人手を加えず自然の推移に委ねることを基本とし、既設の保護林と一体的に保護するため、面積を130haに拡張し、「自生山スギ希少個体群保護林」として、学術研究等に寄与することとしています。



◎交通アクセス

鳴子温泉から約23km
自動車で約30分



自生山入口の標柱

